

こどもと健康

NO・138

2013・9・2

風疹の流行、終息に向かうのか？

先天性風疹症候群増加中！

昨年から関西で始まった風疹の流行は、今年になって関東に拡大、その後ふたたび関西でも流行しています。第19～22週は全国で800例を超えていましたが、その後減少に転じ8月5日からの第32週は105例とピークの7分の1にまで減少しました。今年の累計は13670例に達し、東京都3258例、大阪府3071例、神奈川県1599例、兵庫県1139例と続きます。患者さんの77%が男性でそのうち30歳代が35%、20歳代が24%、40歳代が23%を占め、一方女性では20歳代が41%、30歳代が16%、40代が8%を占め、その割合は流行が始まってから殆んど変化していません。これは1977年～1995年まで中学生女子のみを対象に風疹ワクチンが接種され、その後2003年までは男女ともに接種対象になりましたが接種率が低く、2回目のワクチンがされなかった影響が大きいようです。流行の拡大に伴い、心配していた通り先天性風疹症候群が増加してきました。2004年に10例の報告がありましたが、その後7年間で5例（うち3例は東南アジアからの輸入例）に過ぎませんでした。所が去年は関西を中心に5例が、今年になって8月14日現在、関東を中心に11例（6例が東京都）が報告され、夏以降関西を中心に再び先天性風疹症候群の児が増加する恐れがあります。

流行はもうしばらく流行は続きそうです。予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。

堺市では9月30日迄に限り、19歳以上の(1)(2)に当てはまる方に予防接種費用の一部助成をしていますので、自己負担額は1000円です。(1)妊娠を希望する女性(妊娠中はできません)(2)妊娠している女性の配偶者(婚姻関係を問いません)接種ご希望の方は電話で予約をお願いします。

手足口病、ピーク越え！

夏型感染症の手足口病の流行は7月15日からの第29週にピークを迎え、その後夏休みもあって次第に減少、第34週にはピークの3分の1になりました。手足口病は1～2歳を中心に幼児に多く、名前の通り手のひら・足のうら・口腔粘膜に発疹の出る病気で、微熱程度の発熱を伴います。今年は発疹が手足以外にも、足の甲から臀部にかけて丘疹が出るケースも多く、中には水泡を伴う例もあり、広範囲に広がるケースが多かったようです。又、高熱が出たり、痛みの強い口内炎で食欲が減退する例も多かったようです。コクサッキーウイルスの感染症ですが、中でも例年はA16型が多いのですが、今年はA6型が検出されるケースが多く、このウイルスは一昨年大流行したウイルスです。その時、治癒してから爪が剥がれるケースがありましたので、今年も注意しましょう。残暑が厳しいようですが、流行は次第に収まっていくでしょう。

子宮頸癌予防ワクチン、接種勧奨一時中止

本年4月からの予防接種法改正により、定期接種となった子宮頸癌予防ワクチンが複合性局所疼痛症候群（CRPS）の疑い例が報告されたので、一時接種勧奨を中止することになりました。

子宮頸癌予防ワクチン接種後に注射部位に限局しない筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み、しびれ等が現れ、長期間持続するCRPS疑い例が5例、慢性疼痛が38例報告されました。これらの慢性疼痛症例やCRPSがワクチンと関連があるのか、詳しく調査分析されますので、結果が出るまで一時接種勧奨を中止することになりました。日赤の献血者でも2009年度に約530万人のうちCRPSは24例発生しており、ワクチン接種者は累計300万人位ですので、必ずしも多いとは言えません。結論が出るまで、当院でも一時中止しますが、既に1回目、2回目の接種が済んでいる人で、希望される方には接種しますので、ご相談下さい。

尚、日本産科婦人科学会では去る8月31日声明を発表し、「ワクチンの有効性と安全性は世界的に認められている」との見解を示した。その有用性から安全が確認できれば接種勧奨再開を検討するよう、厚生労働省に求める要望書を提出することになっている。

B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

7月28日は「世界肝炎デー」です。本年4月から予防接種法が改正され、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌予防ワクチンが定期接種となりました。今後、水痘（みずぼうそう）ワクチン、ムンプス（おたふくかぜ）ワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンに拡大されることが期待されます。それまでは任意接種で対応するしかありません。1992年にWHOは加盟国に接種勧奨し、現在では加盟193カ国中177カ国で定期接種化されており、残念ながら日本は数少ない国になっています。日本人の1～2%程度には症状のないキャリア（健康保菌者）がいますが、血液だけでなく唾液、涙、汗、尿、精液等にもウイルスは検出されます。保育所、幼稚園、学校等集団生活により感染する可能性があります。キャリアは数年～数十年後にB型肝炎、肝硬変から肝臓に進行しますが、現在日本では肝臓で亡くなる方が約3万人、その3分の1がB型肝炎によると言われます。B型肝炎ワクチンは癌予防ワクチンと考えられます。幼少期に感染を受けると、キャリア化しやすいので、早めに接種をしましょう。生後2カ月から接種できますが、ヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンが済んでからでも良いでしょう。

かたぎり小児科ホームページ！

<http://www.katagiri-shounika.com/> 又は、「堺市 かたぎり小児科」で 検索。